

「食の安全・安心」についてのアンケート結果

県民の皆さんが食の安全・安心に関して、日ごろ感じておられることとお聞きし、今後の県政（滋賀県食品衛生監視指導計画など）に反映するため、アンケート調査を実施しました。

なお、このアンケートは、県民の皆様の意識の推移も確認しておりますので、平成17年度より継続しています。

★ 実施時期：平成28年6月

★ 対象者：県政モニター 396人

★ 回答数：357人（回収率：90.2%）

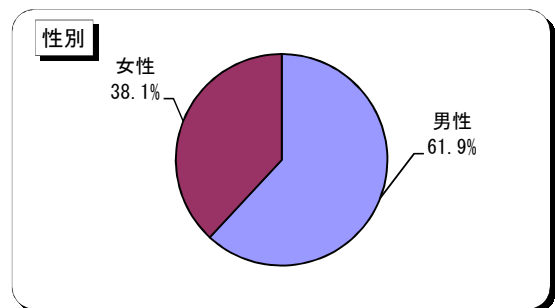
★ 担当課室：健康医療福祉部生活衛生課 食の安全推進室

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

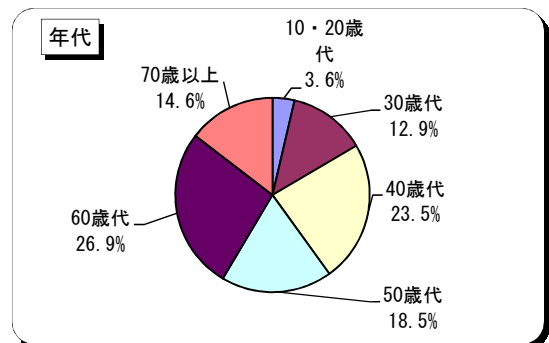
◆性別

項目	人数（人）	割合
男性	221	61.9%
女性	136	38.1%
合計	357	100.0%



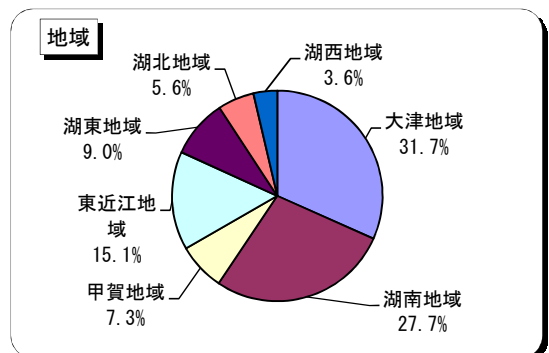
◆年代

項目	人数（人）	割合
10・20歳代	13	3.6%
30歳代	46	12.9%
40歳代	84	23.5%
50歳代	66	18.5%
60歳代	96	26.9%
70歳以上	52	14.6%
合計	357	100.0%



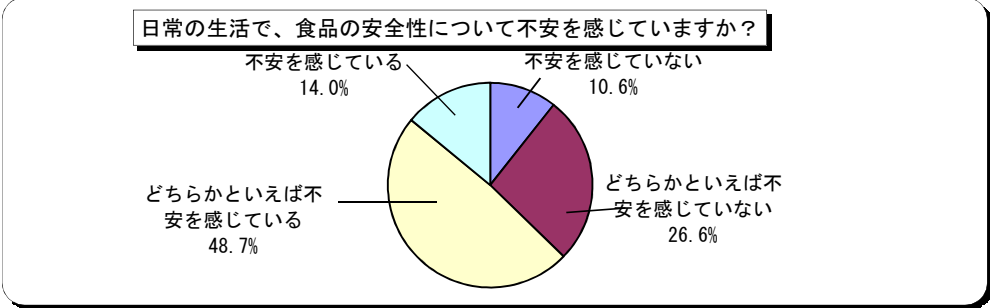
◆地域

項目	人数（人）	割合
大津地域	113	31.7%
湖南地域	99	27.7%
甲賀地域	26	7.3%
東近江地域	54	15.1%
湖東地域	32	9.0%
湖北地域	20	5.6%
湖西地域	13	3.6%
合計	357	100.0%



問1 日常生活で、食品の安全性について不安を感じていますか？（回答チェックは1つだけ。）

項目	人数(人)	割合
不安を感じていない	38	10.6%
どちらかといえば不安を感じていない	95	26.6%
どちらかといえば不安を感じている	174	48.7%
不安を感じている	50	14.0%
合計	357	100.0%



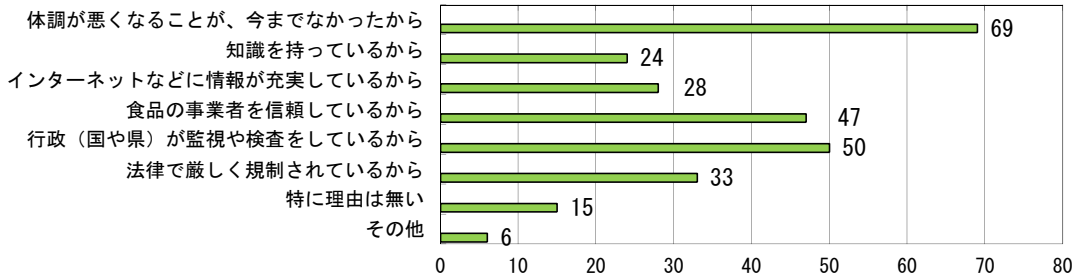
【問1で「1. 不安を感じていない」または「2. どちらかといえば不安を感じていない」と回答された方にお尋ねします。】

問2 食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか？（回答チェックはいくつでも。n=133）

項目	人数(人)	割合
体調が悪くなることが、今までなかったから	69	51.9%
知識を持っているから	24	18.0%
インターネットなどに情報が充実しているから	28	21.1%
食品の事業者を信頼しているから	47	35.3%
行政（国や県）が監視や検査をしているから	50	37.6%
法律で厳しく規制されているから	33	24.8%
特に理由は無い	15	11.3%
その他	6	4.5%

食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか

人数(人)



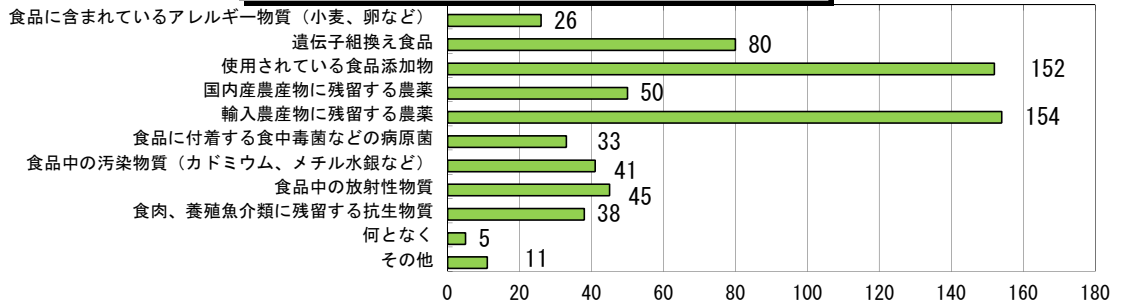
【問1で「3. どちらかといえば不安を感じている」または「4. 不安を感じている」と回答された方にお尋ねします。】

問3 食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか？（回答チェックは3つまで。n=224）

項目	人数(人)	割合
食品に含まれているアレルギー物質（小麦、卵など）	26	11.6%
遺伝子組換え食品	80	35.7%
使用されている食品添加物	152	67.9%
国内産農産物に残留する農薬	50	22.3%
輸入農産物に残留する農薬	154	68.8%
食品に付着する食中毒菌などの病原菌	33	14.7%
食品中の汚染物質（カドミウム、メチル水銀など）	41	18.3%
食品中の放射性物質	45	20.1%
食肉、養殖魚介類に残留する抗生物質	38	17.0%
何となく	5	2.2%
その他	11	4.9%

食品に対して特に不安を感じているのは、次のどれですか

人数(人)



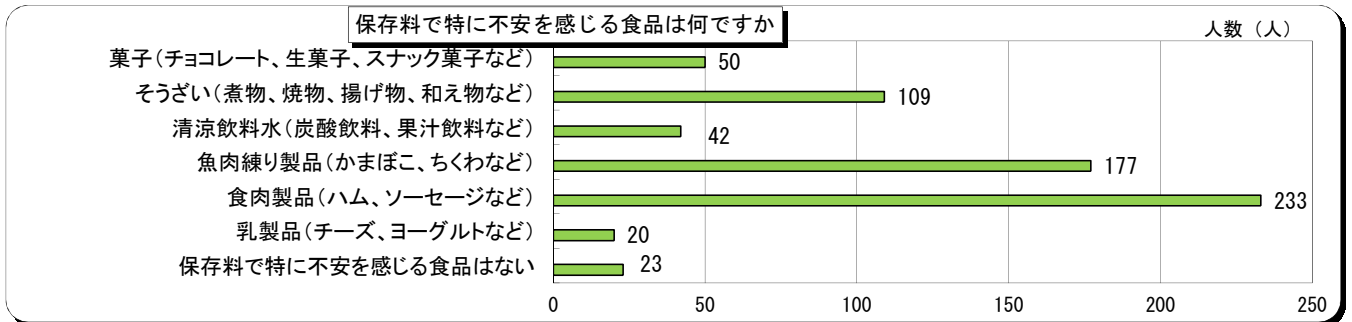
問4 不安を感じる食品について、以下の(1)～(7)の各項目について該当するものを選んでください。

(回答チェックは各2つ。n=351)

【食品添加物】

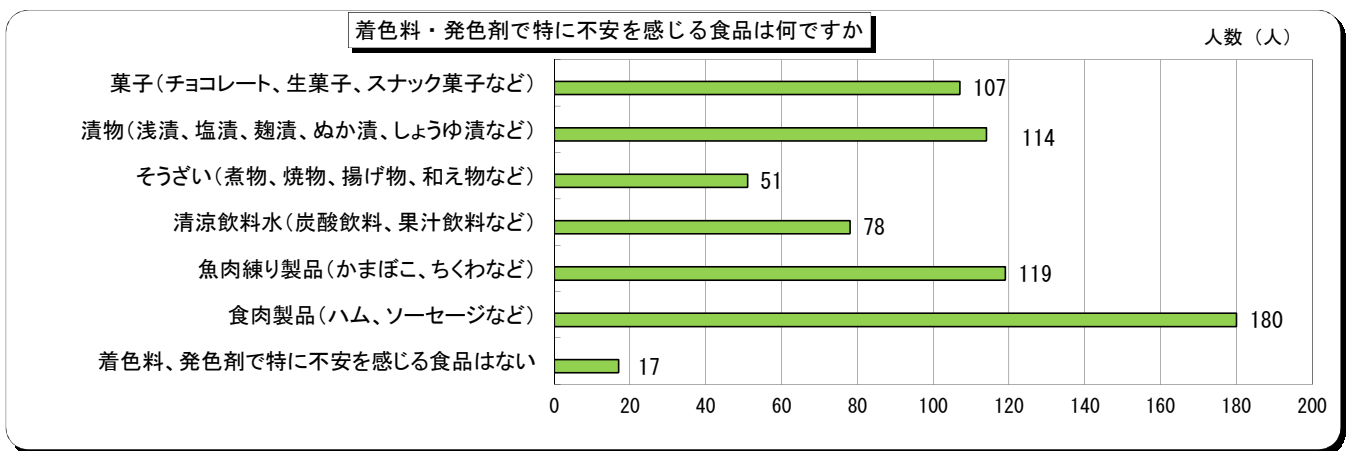
(1) 保存料で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	50	14.2%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	109	31.1%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	42	12.0%
魚肉練り製品(かまぼこ、ちくわなど)	177	50.4%
食肉製品(ハム、ソーセージなど)	233	66.4%
乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)	20	5.7%
保存料で特に不安を感じる食品はない	23	6.6%



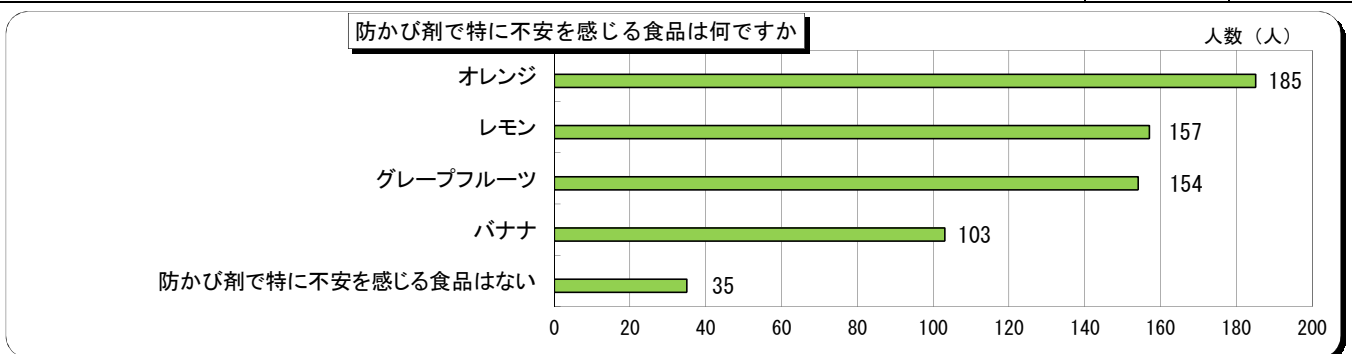
(2) 着色料・発色剤で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	107	30.5%
漬物(浅漬、塩漬、麴漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	114	32.5%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	51	14.5%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	78	22.2%
魚肉練り製品(かまぼこ、ちくわなど)	119	33.9%
食肉製品(ハム、ソーセージなど)	180	51.3%
着色料、発色剤で特に不安を感じる食品はない	17	4.8%



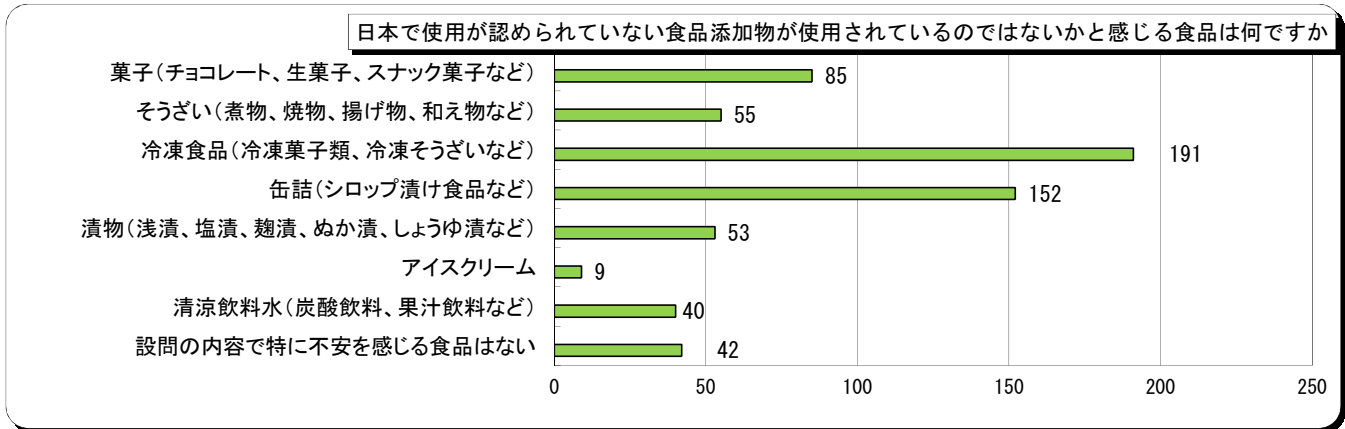
(3) 防かび剤で特に不安を感じる食品は何ですか。

項目	人数(人)	割合
オレンジ	185	52.7%
レモン	157	44.7%
グレープフルーツ	154	43.9%
バナナ	103	29.3%
防かび剤で特に不安を感じる食品はない	35	10.0%



(4) 日本で使用が認められていない食品添加物が使用されているのではないかと感じる食品は何ですか。

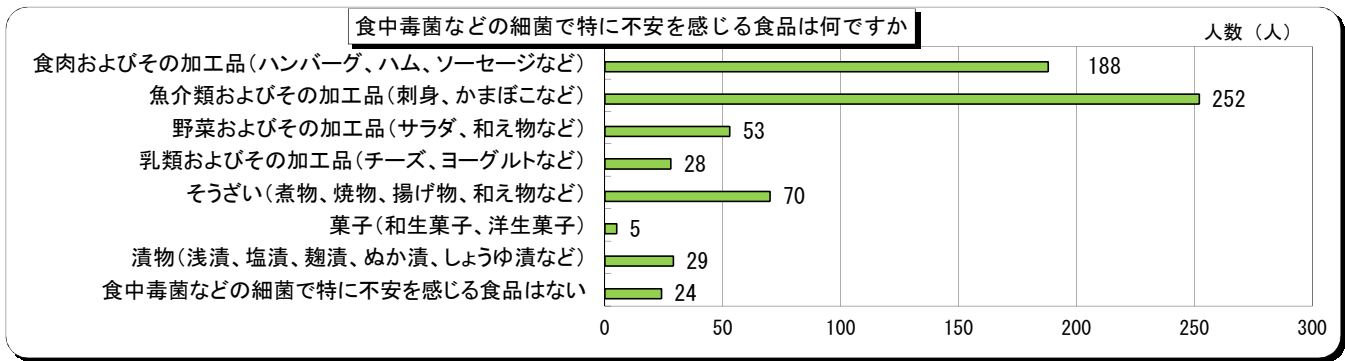
項目	人数 (人)	割合
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	85	24.2%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	55	15.7%
冷凍食品(冷凍菓子類、冷凍そうざいなど)	191	54.4%
缶詰(シロップ漬け食品など)	152	43.3%
漬物(浅漬、塩漬、麴漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	53	15.1%
アイスクリーム	9	2.6%
清涼飲料水(炭酸飲料、果汁飲料など)	40	11.4%
設問の内容で特に不安を感じる食品はない	42	12.0%



【食中毒菌等】

(5) 食中毒菌などの細菌で特に不安を感じる食品は何ですか。

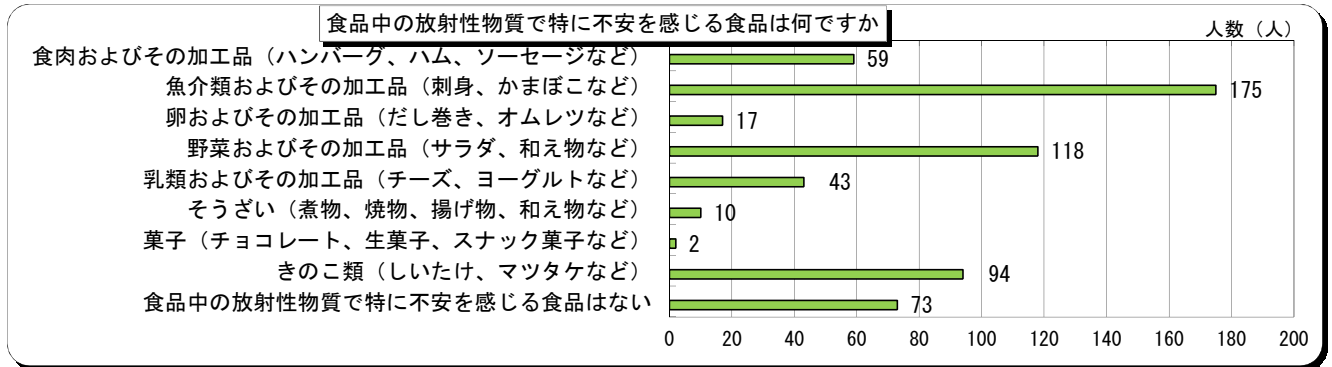
項目	人数 (人)	割合
食肉およびその加工品(ハンバーグ、ハム、ソーセージなど)	188	53.6%
魚介類およびその加工品(刺身、かまぼこなど)	252	71.8%
野菜およびその加工品(サラダ、和え物など)	53	15.1%
乳類およびその加工品(チーズ、ヨーグルトなど)	28	8.0%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	70	19.9%
菓子(和生菓子、洋生菓子)	5	1.4%
漬物(浅漬、塩漬、麴漬、ぬか漬、しょうゆ漬など)	29	8.3%
食中毒菌などの細菌で特に不安を感じる食品はない	24	6.8%



【放射性物質】

(6) 食品中の放射性物質で特に不安を感じる食品は何ですか。

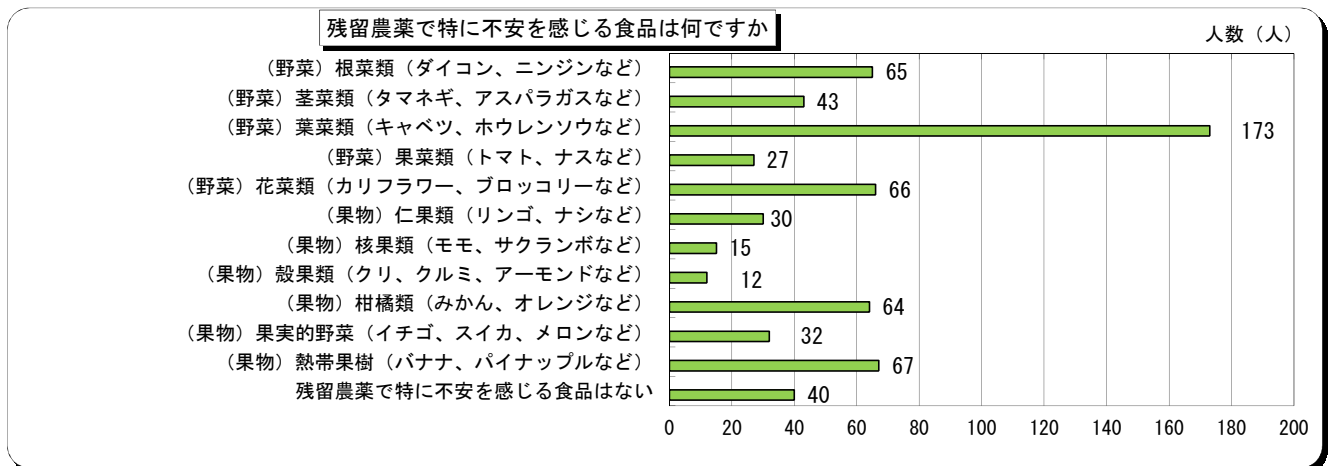
項目	人数(人)	割合
食肉およびその加工品(ハンバーグ、ハム、ソーセージなど)	59	16.8%
魚介類およびその加工品(刺身、かまぼこなど)	175	49.9%
卵およびその加工品(だし巻き、オムレツなど)	17	4.8%
野菜およびその加工品(サラダ、和え物など)	118	33.6%
乳類およびその加工品(チーズ、ヨーグルトなど)	43	12.3%
そうざい(煮物、焼物、揚げ物、和え物など)	10	2.8%
菓子(チョコレート、生菓子、スナック菓子など)	2	0.6%
きのこ類(しいたけ、マツタケなど)	94	26.8%
食品中の放射性物質で特に不安を感じる食品はない	73	20.8%



【残留農薬】

(7) 残留農薬で特に不安を感じる食品は何ですか。

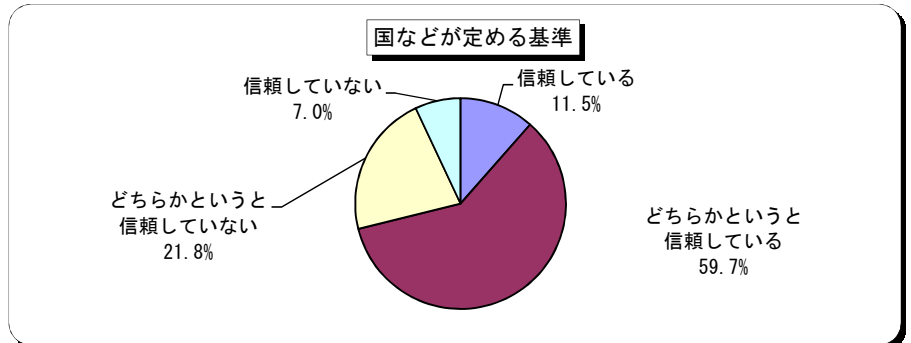
項目	人数(人)	割合
(野菜)根菜類(ダイコン、ニンジンなど)	65	18.5%
(野菜)茎菜類(タマネギ、アスパラガスなど)	43	12.3%
(野菜)葉菜類(キャベツ、ホウレンソウなど)	173	49.3%
(野菜)果菜類(トマト、ナスなど)	27	7.7%
(野菜)花菜類(カリフラワー、ブロッコリーなど)	66	18.8%
(果物)仁果類(リンゴ、ナシなど)	30	8.5%
(果物)核果類(モモ、サクランボなど)	15	4.3%
(果物)殻果類(クリ、クルミ、アーモンドなど)	12	3.4%
(果物)柑橘類(みかん、オレンジなど)	64	18.2%
(果物)果実的野菜(イチゴ、スイカ、メロンなど)	32	9.1%
(果物)熱帯果樹(バナナ、パイナップルなど)	67	19.1%
残留農薬で特に不安を感じる食品はない	40	11.4%



問5 食品にたずさわる関係者等に対する信頼感についてお尋ねします。(回答チェックは各1つ。n=357)

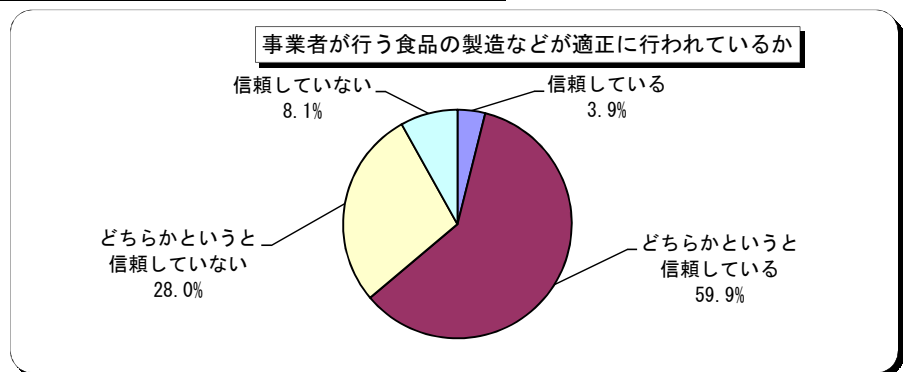
(1) 国などが定める基準(放射性物質の基準、食品添加物の使用基準など)について

項目	人数(人)	割合
信頼している	41	11.5%
どちらかという信頼している	213	59.7%
どちらかという信頼していない	78	21.8%
信頼していない	25	7.0%
合計	357	100.0%



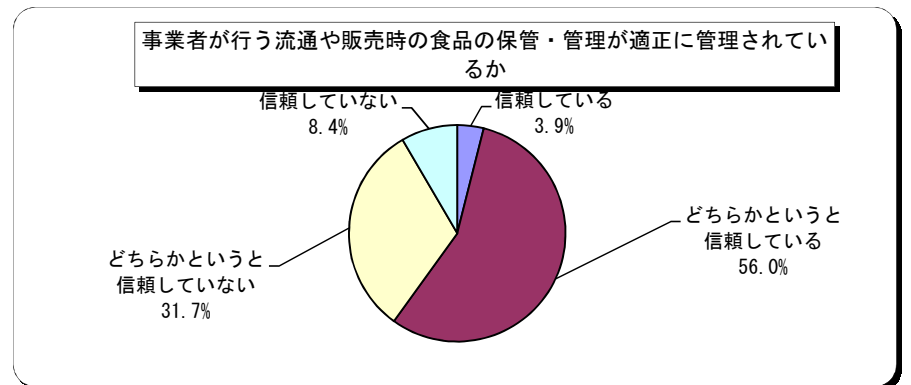
(2) 事業者が行う食品の製造などが適正に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	14	3.9%
どちらかという信頼している	214	59.9%
どちらかという信頼していない	100	28.0%
信頼していない	29	8.1%
合計	357	100.0%



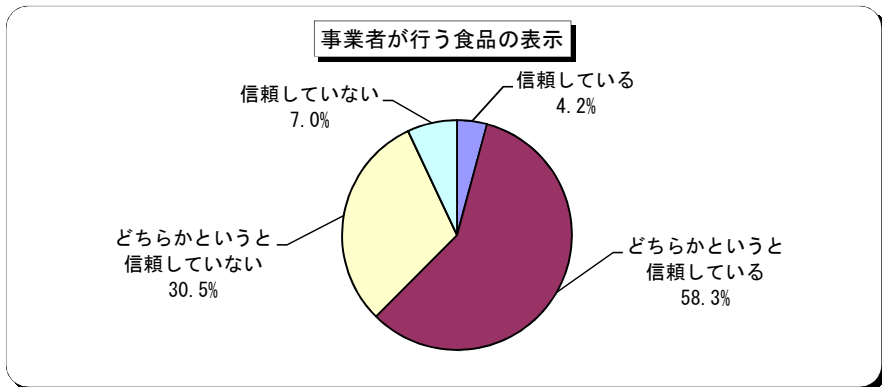
(3) 事業者が行う流通や販売時の食品の保管・管理が適切に行われているかについて

項目	人数(人)	割合
信頼している	14	3.9%
どちらかという信頼している	200	56.0%
どちらかという信頼していない	113	31.7%
信頼していない	30	8.4%
合計	357	100.0%



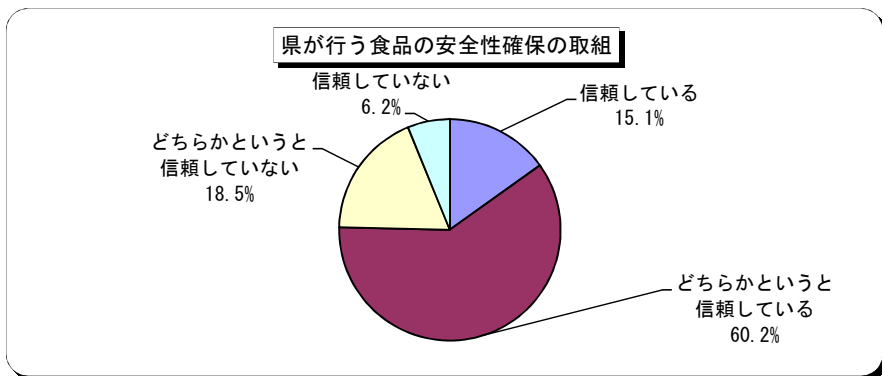
(4) 事業者が行う食品の表示について

項目	人数(人)	割合
信頼している	15	4.2%
どちらかという信頼している	208	58.3%
どちらかという信頼していない	109	30.5%
信頼していない	25	7.0%
合計	357	100.0%



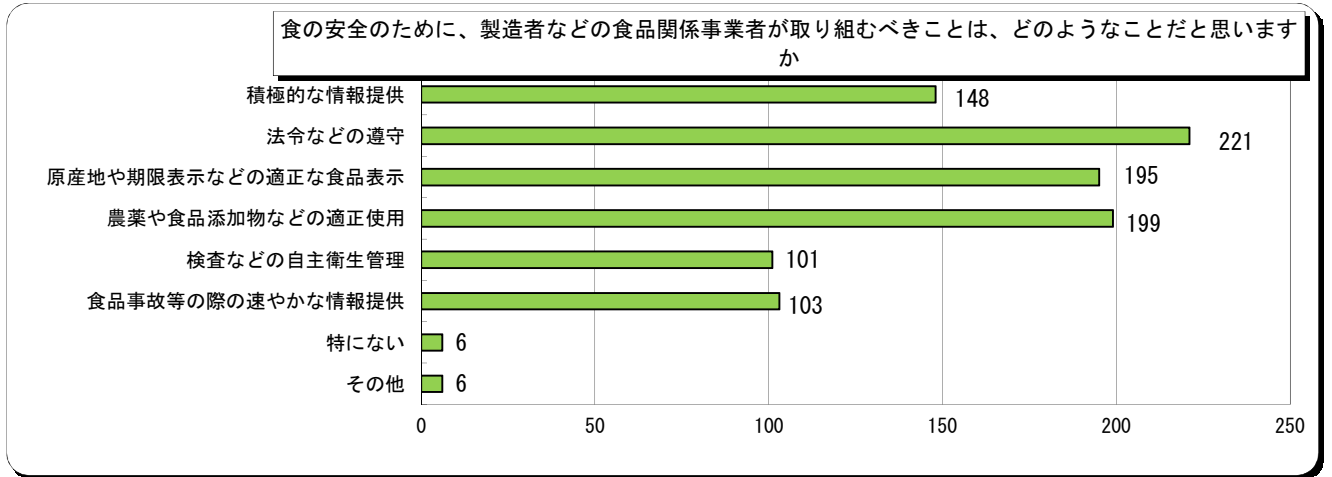
(5) 県が行う食品の安全性確保の取組（飲食店などの立入検査や食品の検査等）について

項目	人数(人)	割合
信頼している	54	15.1%
どちらかという信頼している	215	60.2%
どちらかという信頼していない	66	18.5%
信頼していない	22	6.2%
合計	357	100.0%



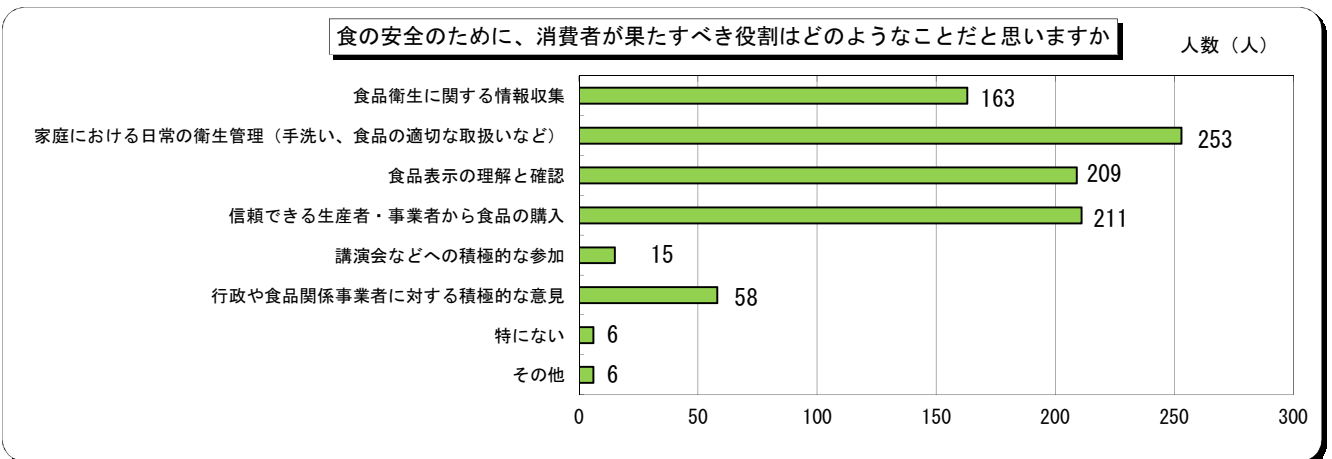
問6 食の安全のために、製造者などの食品関係事業者が取り組むべきことは、どのようなことだと思いますか？
 (回答チェックは3つまで可。n=357)

項目	人数(人)	割合
積極的な情報提供	148	41.5%
法令などの遵守	221	61.9%
原産地や期限表示などの適正な食品表示	195	54.6%
農薬や食品添加物などの適正使用	199	55.7%
検査などの自主衛生管理	101	28.3%
食品事故等の際の速やかな情報提供	103	28.9%
特にない	6	1.7%
その他	6	1.7%



問7 食の安全のために、消費者が果たすべき役割はどのようなことだと思いますか？ (回答チェックは3つまで可。n=357)

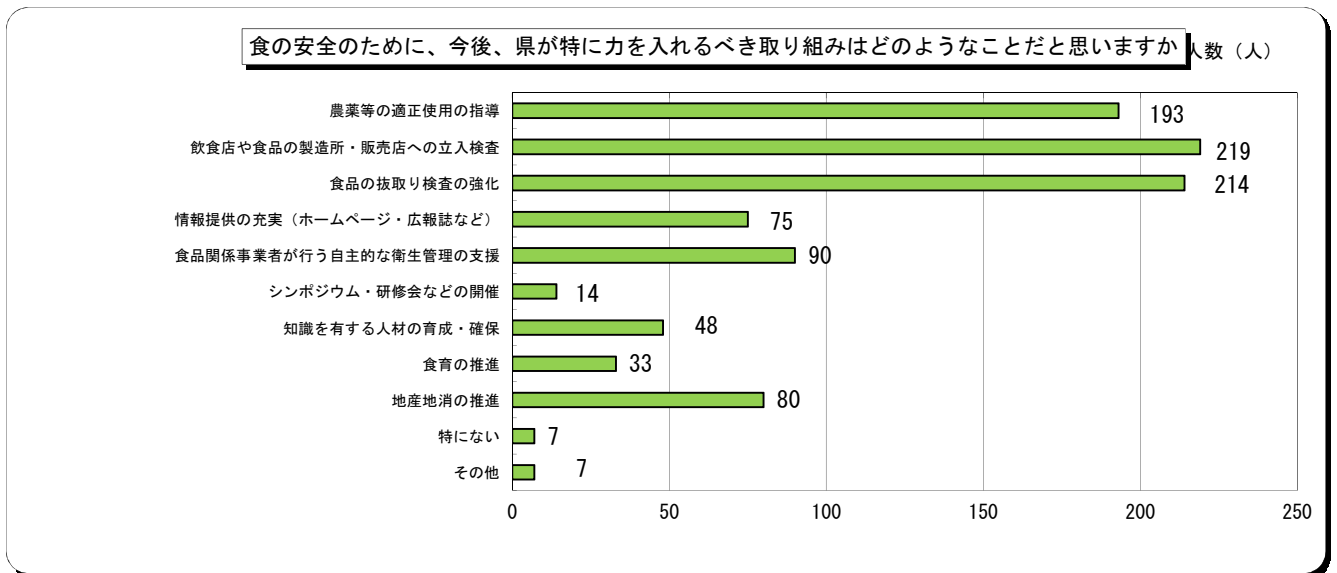
項目	人数(人)	割合
食品衛生に関する情報収集	163	45.7%
家庭における日常の衛生管理(手洗い、食品の適切な取扱いなど)	253	70.9%
食品表示の理解と確認	209	58.5%
信頼できる生産者・事業者から食品の購入	211	59.1%
講演会などへの積極的な参加	15	4.2%
行政や食品関係事業者に対する積極的な意見	58	16.2%
特にない	6	1.7%
その他	6	1.7%



問 8 食の安全のために、今後、県が特に力を入れるべき取り組みはどのようなことだと思いますか？

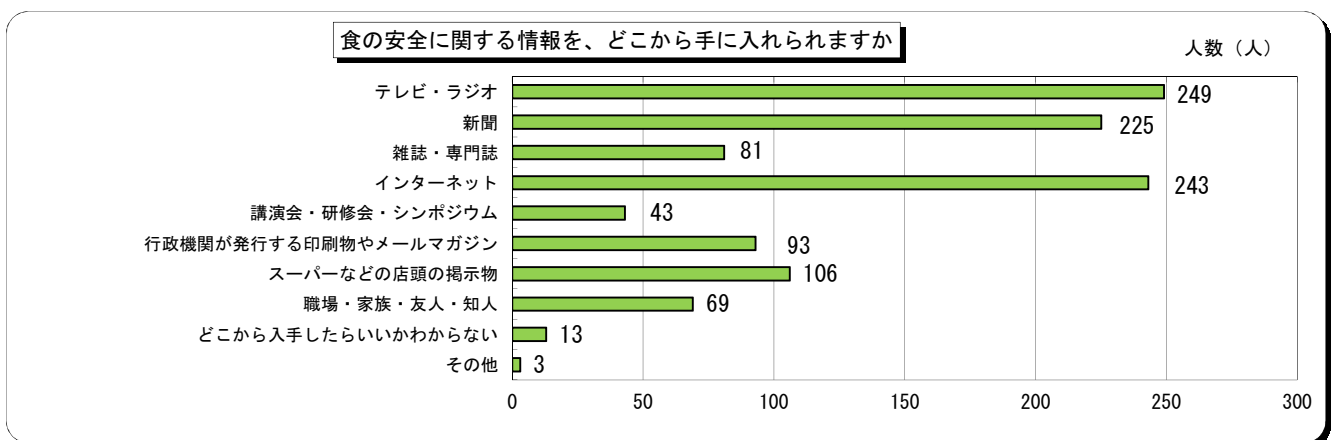
(回答チェックは3つまで可。n=357)

項目	人数(人)	割合
農薬等の適正使用の指導	193	54.1%
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査	219	61.3%
食品の抜き取り検査の強化	214	59.9%
情報提供の充実(ホームページ・広報誌など)	75	21.0%
食品関係事業者が行う自主的な衛生管理の支援	90	25.2%
シンポジウム・研修会などの開催	14	3.9%
知識を有する人材の育成・確保	48	13.4%
食育の推進	33	9.2%
地産地消の推進	80	22.4%
特にない	7	2.0%
その他	7	2.0%



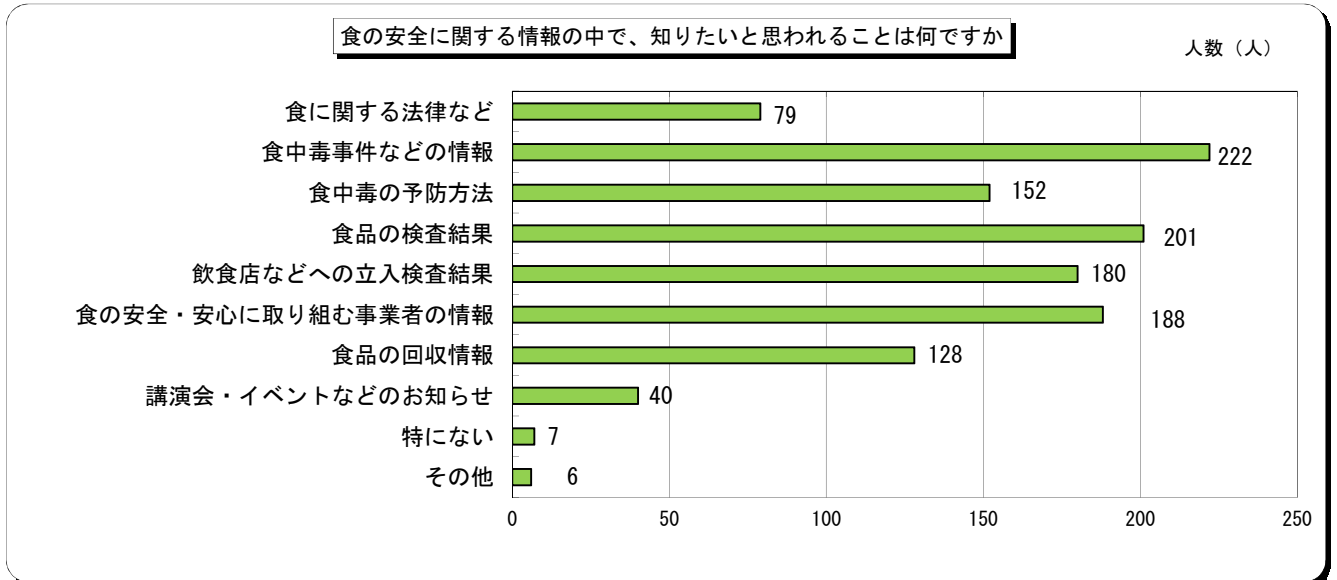
問 9 食の安全に関する情報を、どこから手に入れますか？ (回答チェックはいくつでも可。n=357)

項目	人数(人)	割合
テレビ・ラジオ	249	69.7%
新聞	225	63.0%
雑誌・専門誌	81	22.7%
インターネット	243	68.1%
講演会・研修会・シンポジウム	43	12.0%
行政機関が発行する印刷物やメールマガジン	93	26.1%
スーパーなどの店頭に掲示物	106	29.7%
職場・家族・友人・知人	69	19.3%
どこから入手したらいいかわからない	13	3.6%
その他	3	0.8%



問 10 食の安全に関する情報の中で、知りたいと思われることは何ですか？（回答チェックはいくつでも可。n=357）

項目	人数（人）	割合
食に関する法律など	79	22.1%
食中毒事件などの情報	222	62.2%
食中毒の予防方法	152	42.6%
食品の検査結果	201	56.3%
飲食店などへの立入検査結果	180	50.4%
食の安全・安心に取り組む事業者の情報	188	52.7%
食品の回収情報	128	35.9%
講演会・イベントなどのお知らせ	40	11.2%
特にない	7	2.0%
その他	6	1.7%



問11 あなたが、食の安全性について、日頃感じていることを自由に記述してください。(400字以内)

【主な意見】

- ・食中毒の発生時期や発生事例および対処等についての情報を食品の管理条件(季節性)、広告等で理解する必要があると考えます。
 - ・食品の回収情報について、もっと詳細に結論まで広報願いたい。
 - ・国産、輸入品の検査体制等の実情を知らないのに、国産は安全だと思っている消費者が多い。もちろん国内の生産者、製造者の多くは法に従い安全なものを提供しているはずだが、近年の食品偽装等の問題を見ると、どこまで信じていいのかわからない不安を感じることもある。
 - ・食の原料が、輸入等の国際化になってきている現状で食の安全性の監視が、大変重要になってきている。また、食の安全性について、情報公開を絶えず行うことが重要である。食の安全性について、問題が生じたら、迅速に情報の解析と対策を行うことが重要である。
 - ・ますます輸入に頼らなければならない日本の食である。その輸入食品における、衛生管理や残留農薬、また日本では認められていない農薬の使用など多くの問題点があるように感じています。外国産の農産物・加工食品が、日本の基準にあっているのかどうかなどの情報の入手のすべを知らないで、外国産のものについては不安を強く感じています。
 - ・子供が小さいので、特に添加物は気にして食材を購入しています。消費者が気を付けることは、危険そうな食品を購入しないということくらいです。どんな食品も安心して購入できる状態が理想です。食品添加物や残留農薬の心配があるものは店頭で並べないなどしてほしいです。ただ、そのような措置を一齐に行うことは難しいとも承知しておりますので、消費者が選択する際、データの正当性、信用性、添加物などの知識を正しくもっていることが大前提です。行政の働きかけで、もっとデータの正当性や、立ち入り検査状況など公開して安心できることをアピールしてほしいです。
 - ・食に関して、過度に不安を感じないようにしているが、県の指導を業者等に徹底し何か不都合なことが分かれば速やかな情報開示をして頂きたい。
 - ・飽食の時代に生きている我々は、食品ロスに関心を持ち、無駄な廃棄食品に留意すべきだと思います。食の安全は生産者も消費者もお互いに理解して、法令遵守、相互理解が不可欠である。食べ物は人命に関わるものなので、業者への立ち入り検査や衛生管理の指導等を頻繁に実施して、事前に事故の発生を未然に防ぐための行政の施策が必要であると思います。
 - ・食べるということは、生きるうえで切り離せないものだと思う。農薬や添加物についても重要だと思いが、そのほかに、栄養のことについてももっと目を向けてほしい。塩分や脂肪、糖質のとりすぎが動脈硬化やさまざまな病気を招くこと、そのためにどういう食事をとればいいのか、またそういう食事を助ける食品の開発や普及などをもっと強化していくべきではないか。農薬や添加物は、国の厳しい研究結果のもとで定められた基準値に従って使用していれば安心だと思う。そのため、私たちが身近に知り、実践できる栄養のことをもっと重視してほしいと考える。
 - ・食品が安全に製造されているか不安を感じる時が有り問題が発生した時の情報を早く流して欲しいです。
 - ・お惣菜等、スーパー内やその場で調理されている方々のアレルギー物質への危機管理に不安を感じる時が多々あります。アレルギー物質を聞いても、「たぶん大丈夫」と不安になる回答しかして頂けないところもあります。アレルギーをもっている人に対しても安心して食せる用、アレルギーに対する危機管理を徹底して頂きたいと思います。
 - ・食の安全、安心が求められております。このため県では色々な取り組みを推進し食中毒の予防、検査体制の充実、食品製造者、流通業者への指導強化を推進しておりますが、一層の充実をお願いします。
 - ・食品表示をみて購入するようにはしていますが、知らない薬剤の名前などが出てきて、実際には安全なのかどうかよく分かりません。ネットでも、食品をきれいにしたり、長持ちさせる薬品は体に良くない等の情報もあり、どれが正しい情報なのか分からず不安です。
 - ・行政機関対応の遅れが目立ちます。メディアをもっと有効に使う努力が足りないように感じます。
 - ・特に不安を感じることはありません。不必要に不安を煽る報道が多いことには辟易しています。
 - ・原産地とアレルギー対象などの表示は大きく出して欲しい。
 - ・抜き打ちチェックで常に安全性を維持してほしい。
 - ・日本での食の安全は世界的に見ても厳しい基準で管理されていると思いますが、それでも輸入食品を中心に気になる事件が起きています。私たち自身が「より安く」を「より安全に」に切り替えた消費行動にしていけないとそれらは改善しにくいと思います。安全をおろそかにした代償は高いのだと肝に銘じて取り組みを進めていきたいものです。
 - ・食の安全を守ることは大事ですが、あまりこだわり過ぎてがんじがらめになってしまうのも良くないように思います。100%の安全はありえません。消費者もそれを理解して、冷静に情報を判断しなくてははいけないのではないでしょうか。
 - ・兎に角食の安心安全についての自分自身の関心を高めること。
 - ・国や自治体が最後の防波堤なので監視を続けてほしい。
 - ・食の安全については日本では特にきっちりしていると感じています。
- しかしながら、特に最近テレビ・雑誌・インターネットなどで、不安を煽るような形でのデマや科学的根拠に乏しい情報などが見受けられ、都道府県や国がそういうものに振り回されてしまわないかという心配はあります。